

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第2区分

【発行日】平成23年8月18日(2011.8.18)

【公開番号】特開2011-29580(P2011-29580A)

【公開日】平成23年2月10日(2011.2.10)

【年通号数】公開・登録公報2011-006

【出願番号】特願2009-252488(P2009-252488)

【国際特許分類】

H 01 G 9/028 (2006.01)

H 01 G 9/052 (2006.01)

H 01 G 9/00 (2006.01)

【F I】

H 01 G 9/02 3 3 1 G

H 01 G 9/05 K

H 01 G 9/02 3 3 1 H

H 01 G 9/24 C

【手続補正書】

【提出日】平成23年7月5日(2011.7.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

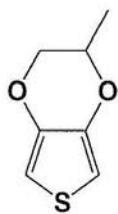
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

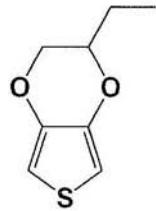
【請求項1】

下記一般式〔2〕および〔3〕

〔2〕



〔3〕



により表わされる化合物の少なくとも1つを重合させて得られる高分子を、誘電体酸化皮膜が形成された弁作用金属上に形成する工程を有する固体電解コンデンサの製造方法であって、

(A) 上記一般式〔2〕および〔3〕により表わされる化合物からなる群から選ばれる少なくとも1つ、

(B) ドーパント、

および(C)酸化剤

を、液相にて接触させて重合を行う工程を含み、

前記(B)ドーパントおよび(C)酸化剤として、(B)ドーパントおよび(C)酸化剤の双方の性質を持つ化合物を使用し、

前記(B)ドーパントおよび(C)酸化剤の双方の性質を持つ化合物が、有機スルホン酸第二鉄塩であり、

前記液相が、有機スルホン酸第二鉄塩を40～70重量%の範囲で含むことを特徴とする、固体電解コンデンサの製造方法。

【請求項2】

弁作用金属微粒子を焼結して得られた多孔性成形体を陽極とする固体電解コンデンサの製造方法であって、

前記陽極表面に誘電体酸化皮膜を形成する工程と、

上記一般式[2]および[3]により表わされる化合物の少なくとも一方を重合させて得られる高分子を、前記誘電体酸化皮膜が形成された陽極上に形成する工程と、

前記高分子の表面にカーボン層および銀層を含む陰極を形成する工程と、

を備えた請求項1に記載の固体電解コンデンサの製造方法。